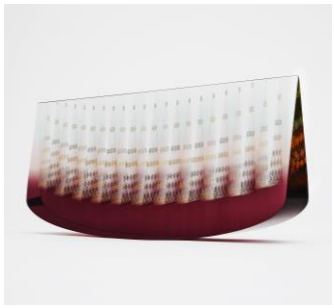
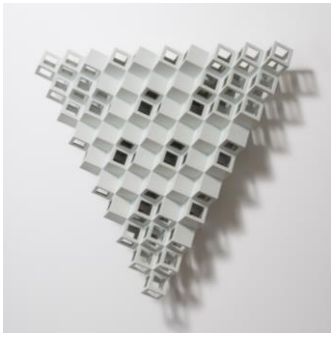




工芸の現在

第二回菊池寛実賞

CONTEMPORARY JAPANESE CRAFTS

The Kikuchi Kanjitsu Prize II

2016年 12月17日(土) ～ 2017年 3月20日（月・祝）

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35　西久保ビル B１F

TEL03-5733-5131　FAX03-5733-5132　http://www.musee-tomo.or.jp

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび当館では 2016 年 12 月 17 日より**「第 2 回菊池寛実賞 工芸の現在」**展を開催いたします。2014 年度に第 1 回展を開催し、このたび第 2 回展を迎えることとなりました。

本展では工芸分野で活躍する作家を、陶磁、ガラス、金工、竹工、截金ガラスから 12 名ご紹介し、新作から近作約 60 点を展示します。

作家ごとに異なる制作への取り組みは、多彩な作品を生み出します。陶芸では、焼成によって生じる土肌の質感、釉薬や上絵による色彩、躍動感や緊張感のある独自の造形に見所があります。他にも、動感のある造形に陰影を纏う無色透明の吹きガラスや、鉄を素材に有機的な質感や形を創出する金工作品があり、竹工は編み目の連なりが構造を示して作家の思考を表すかのようです。そして、截金ガラスは、ガラスの色・形と截金を合わせた立体的な文様構成に見応えがあります。

12 名の充実した制作を通し、現代における工芸の多様な表現とその可能性をご覧ください。

出品作家は、当館の学芸員が選定した後、外部の専門家からの助言を反映させて決定いたしました。また会期中に「菊池寛実賞」の選考を行い、最も優れた制作を行っている作家に同賞を授与し、その活動を奨励いたします。

本企画の周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

■■展覧会概要■■

〇展覧会名	**「第 2 回菊池寛実賞　工芸の現在」展**
〇会期	**2016 年 12 月 17 日(土)～ 2017 年 3 月 20 日(月・祝)**
〇観覧料	**一般 1,000 円／大学生 800 円／小中高生 500 円**
〇主催	公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
〇会場	菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4－1－35　西久保ビル） http://www.musee-tomo.or.jp
〇開館時間	午前 11 時から午後 6 時まで（入館は午後 5 時 30 分まで）
〇休館日	毎週月曜日（ただし 2017 年 1 月 2 日、1 月 9 日、3 月 20 日は開館）、 1 月 3 日（火）、1 月 10 日（火）、年末年始 12 月 28 日～1 月 1 日
〇展示内容	12 名の工芸作家の新作、近作約 60 点を展示（竹工芸のみ展示替えあり）

【展覧会に関するお問い合わせ】
担当：島崎（☎03-5733-5131/ FAX03-5733-5132）

プレスプレビューのご案内は最終ページをご覧ください。

作家紹介（分野別五十音順）

井口 大輔
IGUCHI Daisuke
［陶磁］
（1975 年栃木県生／栃木県）

1988 東北芸術工科大学芸術学部美術科陶芸卒業、1999 栃木県窯業指導所研究生修了、浦口雅行氏に師事、2008 第 7 回益子陶芸展 審査員特別賞（第 4 回～6 回入選）、2011 第 58 回日本伝統工芸展 入選（第 61 回）、2012 智美術館「茶の湯の現代」入選、2013 茨城県陶芸美術館「笠間×益子 新世代の energy」、2014 第 54 回東日本伝統工芸展 東京都知事賞、その他個展多数

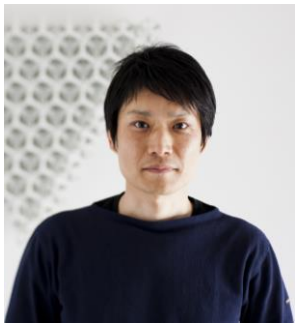
「銹陶銀彩壺」2016 年
h.37.5 w.27.5 d.29.7 cm
撮影：滑忠之

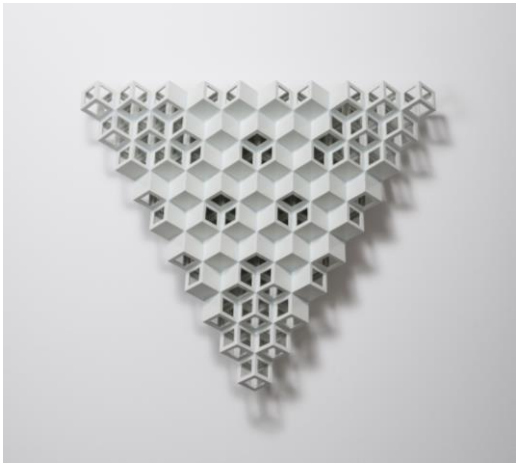
神谷 麻穂
KAMIYA Asaho
［陶磁］
（1986 年愛知県生／富山県）

「浮花」〈部分〉 2016 年 h.13.0 w.400.0 d.85.0 cm 撮影：滑忠之

2011 第30回長三賞常滑陶芸展 入選、2012 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科工芸専攻 修了、2013～2015 同大学 実習助手、2012 アートアワードトーキョー丸の内 2012 シュウ ウエムラ賞、2013 個展（LIXIL ギャラリーガレリアセラミカ・東京）、2014 横浜アートコンペティション 審査員賞、2015 個展（三越銀座店/東京）、2016 ザプリンスギャラリー東京紀尾井町 レセプションカウンター壁面に作品展示

亀井 洋一郎
KAMEI Yoichiro
［陶磁］
（1974 年香川県生／香川県）





「Lattice receptacle-様相の舞台 1」
2015 年 h.56.0 w.65.0 d.11.0 cm 撮影：表恒匡

1997大阪芸術大学芸術学部工芸学科陶芸専攻卒業、1999同大学大学院芸術制作研究科修了、2001第39回朝日陶芸展グランプリ、2004第1回台湾国際陶芸ビエンナーレ優秀賞、2006京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程修了、2010平成21年度香川県文化芸術新人賞、平成21年度京都市芸術新人賞、他、個展・グループ展多数、現在 国立大学法人琉球大学准教授

川端 健太郎
KAWABATA Kentaro
［陶磁］
（1976 年埼玉県生／岐阜県）

「白磁辰砂白金錦彩綴化茶盌」
2016 年　h.14.0　w.19.0　d.16.0 ㎝
撮影：滝忠之

1998 東京デザイナー学院陶器科　卒業、2000 多治見市陶磁器意匠研究所　卒業、2001 織部の心作陶展大賞、2002 益子陶芸展審査員特別賞（‘04 加守田章二賞）、2003 個展（ガレリアセラミカ/東京）、個展（サボア・ヴィーヴル/東京、以後 6 回）、2004 個展（銀座黒田陶苑、以後 4 回）、2007 パラミタ陶芸大賞展　大賞/三重、2012 個展（日本橋高島屋、同 15 年）、その他個展、グループ展多数

中田 博士
NAKADA Hiroshi
［陶磁］
（1979 年石川県生／石川県）

「真珠光彩 壺」2016 年 h. 50.0　φ33.0 ㎝
撮影：滝忠之

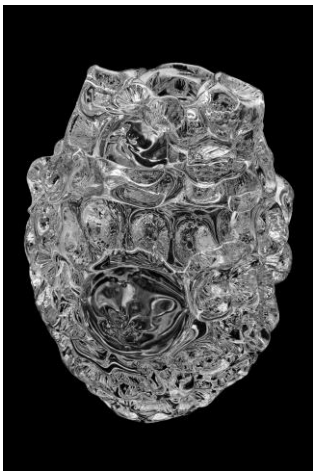
2005　第 7 回国際陶磁器展美濃　銅賞、2008　第 55 回日本伝統工芸展　入選（‘10、‘12、‘14、‘15）、2009　第 3 回菊池ビエンナーレ　入選（第 6 回）、第 50 回石川の伝統工芸展優秀賞（‘13、‘15）、第 56 回日本伝統工芸展　新人賞、2010 第 1 回金沢世界工芸トリエンナーレ（金沢 21 世紀美術館）、美の予感 2010－現代の器－（日本橋高島屋　他巡回）、2014　第 55 回石川の伝統工芸展　特賞、2015　第 23 回日本陶芸展　特別賞（茨城県立陶芸美術館賞）

藤笠 砂都子
FUJIKASA Satoko
［陶磁］
（1980 年山口県生／東京都）

「飛天」2016 年 h. 67.6 w.60.5 d.44.8 ㎝
撮影：矢野雅也

2007　東京藝術大学大学院工芸科陶芸専攻修了、2008　第 8 回国際陶磁器展美濃　入選、第 7 回益子陶芸展入選、2009　第 3 回菊池ビエンナーレ　入選（‘11）、第 20 回日本陶芸展　入選（‘11）、第 5 回韓国京機道世界陶磁ビエンナーレ　特別賞、第 29 回長三賞現代陶芸展　長三大賞、2010　現在形の陶芸萩大賞 2010 萩大賞、2014 第 19 回 MOA 岡田茂吉賞展（MOA 美術館、2015 Form in Motion：Sculpture by Fujikasa Satoko,（JOAN B. MIRVISS LTD./ New York）、2016　第 26 回タカシマヤ美術賞、その他個展多数

三嶋 りつ恵
MISHIMA Ritsue
［ガラス］
（1962 年京都府生／
京都府・ヴェネツィア）



1989 ヴェネツィアに移住、1996 ムラーノ島の硝子工房で職人と協同による作品制作を開始、2011 住まいを京都に移しヴェネツィアと往復生活を送る
1999より国内外で個展、グループ展多数。
近年の個展
2013「清澄」シュウゴアーツ(東京)、(国立パラッツオ・グリマーニ美術館/第 55 回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展関連企画)
2014 個展 思文閣銀座(東京)
2015「Consciousness」Galerie Pierre Marie Giraud (ブリュッセル)

「DEA」2015 年
h.47.0 w.38.0
撮影：Francesco Barasciutti

留守 玲
RUSU Aki
［金工］
（1976 年宮城県生／神奈川県）

2002 多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻クラフトデザイン修了、2004 第 11 回日本現代藝術奨励賞、2007〈素材×技術〉からフォルムへ−布と金属(茨城県つくば美術館)、工芸の力-21 世紀の展望(東京国立近代美術館工芸館)、2012 留守玲の茶室 さびのけしき(山口県立萩美術館・浦上記念館)、2014 第 19 回 MOA 岡田茂吉賞展、2016 生への言祝ぎ展(大分県立美術館)、その他個展多数。現在 多摩美術大学工芸学科非常勤講師

「ゴールデン・バグ」 2015 年
h.45.2 ㎝ w.56.2 d.20.4 ㎝
撮影：淸忠之

山本 茜
YAMAMOTO Akane
［截金ガラス］
（1977 年石川県生／京都府）

「源氏物語シリーズ 第十帖『賢木』余話(別れのお櫛)」
2016 年
h.23.5 w.50.0 d.8.7 ㎝
撮影：淸忠之

2001 京都市立芸術大学美術学部美術科日本画模写・水墨画専攻卒業、2011 富山ガラス造形研究所造形科卒業、日本伝統工芸近畿展日本工芸会近畿支部長賞、伝統工芸諸工芸部会展朝日新聞社賞、2013 京都市芸術新人賞、国際ガラス展・金沢 奨励賞、2014 日本伝統工芸展 NHK 会長賞、2015 伝統文化ポーラ賞奨励賞、2016 京都府文化賞奨励賞、新鋭選抜展−琳派 FOREVER 優秀賞、現在日本工芸会正会員

植松 竹邑
UEMATSU Chikuyu
［竹工］
（1947 年東京都生／
神奈川県）

「すゞかぜ立つ」2014 年 h.36.0 φ74.0 ㎝
撮影：淯忠之

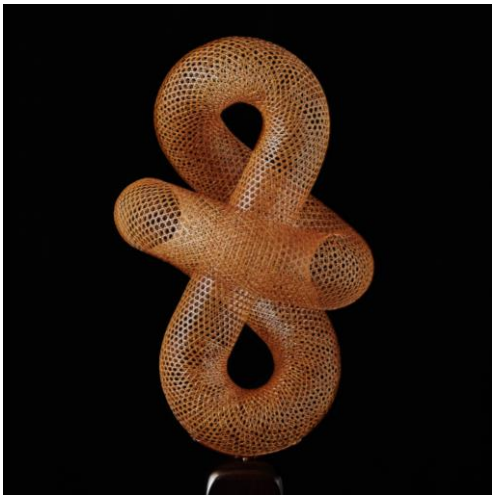
1976-82 大分県別府市職業訓練校および同市の名工達に竹工芸を学ぶ、1979 石井岩夫氏に漆工を学ぶ、1988 根本曠子氏に漆工を学ぶ、1977-81 大分県美術展、西部工芸展、1991 花の器展（草月美術館）、1992 サントリー美術館展、1993 金沢工芸大賞展（‘97）、1998 朝日現代クラフト展（‘00）、神奈川県美術展（以後 5 回）、など公募展出品多数、2004 ロイド・コッツェン・コレクション展および併催大分県立芸術会館所蔵竹工芸展（広島県立美術館）、2006「日本の竹工芸」展（ボストン美術館）、2008「NEW BAMBOO」展（N.Y, Japan Society Gallery）、2012「竹工芸の継承・革新」展（大分県立美術館）、2013「ランディ・コレクション近代竹工芸の誕生」展（とちぎ蔵の街美術館）

杉浦 功悦
SUGIURA Noriyoshi
［竹工］
（1964 年宮城県生・愛知県出身／
大分県）

「虎嘯風生」2012 年
h.50.0 w.50.0 d.50.0 ㎝ 撮影：淯忠之

1988 大阪大学工学部金属材料工学科卒業、1997別府高等技術専門校 産業工芸試験所で竹芸を習得（～‘98）、2003 渡辺竹清に師事 網代編を習得、2004 日本伝統工芸展入選（‘07、‘11、‘12）、2005 岡崎竹邦齋に師事 長ヒゴ技術を習得、2007 個展（大通美術館・札幌、同じく‘10）、2008 大分国体に際し天皇陛下に花籠「巣ごもり」を献上、2012「modern Twist-Contemporary Japanese Bamboo Art-」（～‘16 まで全米巡回）、2015「Japanese Bamboo and The World Expo」（サンディエゴ）第20回全国竹芸展 最優秀賞、現在・日本工芸会正会員

谷岡 茂男
TANIOKA Shigeo
［竹工］
（1949 年兵庫県生／奈良県）



「LOOP 2012」 2012 年 h.75.0 φ37.0 ㎝
撮影：淯忠之

1974 二代田辺竹雲斎に師事、1984 独立する。日本クラフト入選（同‘87）、1990伊丹クラフト銀賞、1991 日本伝統工芸展入選、1992堺市展 堺市市議会賞、1994 木と漆のクラフト展 特別賞作品買上げ、1997 大阪工芸展 大阪府工芸大賞、1998 朝日現代クラフト展 奨励賞、伝統工芸木竹展 文化庁長官賞、1999 日本伝統工芸近畿展 近畿賞（‘04、‘07奈良教育委員会賞）、2001 日本伝統工芸展 総裁賞、2002 コッツェンバンブー賞 準グランプリ（‘04グランプリ）、2012 美術工芸の明日を担う20人展、2015 伝統工芸木竹展 朝日新聞社賞 現在・日本工芸会正会員

出品作家一覧〈分野別五十音順〉

井口　大輔（陶　磁）	留守　玲（金　工）
神谷　麻穂（陶　磁）	三嶋 りつ惠（ガラス）
亀井 洋一郎（陶　磁）	植松　竹邑（竹　工）
川端 健太郎（陶　磁）	杉浦　功悦（竹　工）
中田　博士（陶　磁）	谷岡　茂男（竹　工）
藤笠 砂都子（陶　磁）	山本　茜（截金ガラス）

〈作家選定について〉

作家選定は、当館学芸員が選定した後、アドバイザーとして外部の専門家からの助言を反映させて決定いたしました。

アドバイザー

天野 一夫（美術評論家）

外舘 和子（工芸評論家）

〈菊池寛実賞について〉

主催者側が委嘱する選考委員が選考を行い、本展出品者から菊池寛実賞授与者を決定します。

菊池寛実賞 1 点賞金 100 万円

選考委員

金子 賢治（茨城県陶芸美術館館長）

白石 和己（山梨県立美術館館長）

菊池　節（菊池寛実記念 智美術館館長）

審査会は展覧会の開催中 2016 年 12 月中に実施いたします。
結果は 2017 年 1 月中旬に当館ホームページ上で発表いたします。

■関連行事■

❖アーティストトーク ＜予約不要・観覧料のみ（聴講無料）＞

いずれも 15 時～　当館 B1 階展示室にて

出品作家の皆様に、作品や、制作秘話、今後の展望などについてお話しいただきます。

1 月 22 日（日）　**神谷　麻穂**（陶　磁）＆ **杉浦　功悦**（竹　工）

1 月 28 日（土）　**藤笠砂都子**（陶　磁）＆ **留守　　玲**（金　工）

2 月 11 日（土）　**井口　大輔**（陶　磁）＆ **中田　博士**（陶　磁）

2 月 19 日（日）　**川端健太郎**（陶　磁）＆ **三嶋りつ惠**（ガラス）

3 月 4 日（土）　**亀井洋一郎**（陶　磁）＆ **谷岡　茂男**（竹　工）

3 月 11 日（土）　**植松　竹邑**（竹　工）＆ **山本　　茜**（截金ガラス）

✤学芸員によるギャラリートーク ＜予約不要・観覧料のみ（聴講無料）＞

1 月 7 日、14 日／2 月 25 日…各土曜日 14：00

✤西洋館見学会 （予約制・定員 20 名様）

2 月 4 日／3 月 11 日　いずれも土曜日 11 時より

会費：8,000 円　西洋館のご案内（建築家 篠田義男氏による）、美術館観覧料（学芸員の解説付き）、レストラン ヴォワ・ラクテでのランチを含みます。

当館施設内にある西洋館（登録有形文化財）は大正時代に建てられました。修復を重ねながら建具等の室内装飾を丁寧に保全し、今日まで使用しています。通常は非公開の内部を上記の日程で限定公開します。

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を 1 点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先　菊池寛実記念 智美術館（担当：島崎）TEL.03（5733）5131

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX：０３－５７３３－５１３２

●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	**担当者名:**
住所:	
電話／FAX	**E-MAIL:**

●媒体情報

新聞・雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV・ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

●画像貸出リスト ※キャプションには作者・作品名・制作年、撮影者を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
□	図 1）井口 大輔「錆陶銀彩壺」2016 年 h.37.5 w.27.5 d.29.7 ㎝ 撮影:淵忠之
□	図 2）神谷 麻穂「浮花」(部分) 2016 年 h.13.0 w.400.0 d.85.0 ㎝ 撮影:淵忠之
□	図 3）亀井 洋一郎「Lattice receptacle-様相の舞台 1」2015 年 h.56.0 w.65.0 d.11.0 ㎝ 撮影:表恒匡
□	図 4）川端 健太郎「白磁辰砂白金錦彩綴化茶盌」2016 年 h.14.0 w.19.0 d.16.0 ㎝ 撮影:淵忠之
□	図 5）中田 博士「真珠光彩 壺」2016 年 h. 50.0 φ33.0 ㎝ 撮影:淵忠之
□	図 6）藤笠 砂都子「飛天」2016 年 h. 67.6 w.60.5 d.44.8 ㎝ 撮影:矢野雅也
□	図 7）三嶋 りつ惠「DEA」2015 年 h.47.0 w.38.0 撮影:Francesco Barasciutti
□	図 8）留守 玲「ゴールデン･バグ」2015 年 h.45.2 ㎝ w.56.2 d.20.4 ㎝ 撮影:淵忠之
□	図 9）山本 茜「源氏物語シリーズ 第十帖『賢木』余話(別れのお櫛)」2016 年 h.23.5 w.50.0 d.8.7 ㎝ 撮影:淵忠之
□	図 10）植松 竹邑「すゞかぜ立つ」2014 年 h.36.0 φ74.0 ㎝ 撮影:淵忠之
□	図 11）杉浦 功悦「虎嘯風生」2012 年 h.50.0 w.50.0 ㎝ 撮影:淵忠之
□	図 12）谷岡 茂男「LOOP 2012」2012 年 h.75.0 φ37.0 ㎝ 撮影:淵忠之

●読者プレゼント用チケット希望：　□5 組 10 名様　　□10 組 20 名

プレスプレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスプレビュー　2016 年 12 月 16 日（金）　14:00 ～

14:00 ～14:45　展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います。(会場をご撮影いただけます。)
出品作家も来場の予定です。

14:45 ～15:00　皆様からのご質問にお答えいたします。

会場：　菊池寛実記念 智美術館　〒105-0001　港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1

・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分
・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
・銀座線・虎ノ門駅：　出口 3 より徒歩 10 分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAX にて
ご返信下さい。**返信先 FAX　03-5733-5132**

会社名:	
担当部署、氏名	
住所:	
電話:	**FAX:**
Email	